

福井城跡  
山里口御門地点  
現地説明会資料

平成27年5月9日(土)

福井県

## 調査の目的

福井県では平成 25 年度より山里口御門の復元事業を進めています。それにもない、石材のゆがみや破損が目立つ御門復元地点の石垣解体・積み直しが必要となりました。そこで、石垣の現状を記録にとどめるとともに、近世の石垣の築造工程や修復状況を明らかにするため、石垣の解体と発掘調査を同時に行うことにしました。

## 調査の方法

調査は今年 2 月末に着手し、以下の手順で進められています。

- 1 足場設置・石材洗浄 足場を組んだ後、高圧洗浄機で石材表面の汚れを落とす。
- 2 墨打ち・番号付け 石材表面に 50 cm 間隔の線を入れ、個体番号を記す。
- 3 トレンチ掘削 盛土や裏込石の状況を確認するため、溝状に掘削を行う。
- 4 盛土・裏込石除去
- 5 写真測量 石垣石材や裏込石の平面図の測量を行う。
- 6 石垣解体 石材上面に個体番号を記入し、石材の据え付け角度を計測した後、クレーン車で石材を堀内に降ろす。
- 7 石材調書作成 石材の寸法および刻印や矢孔等の加工痕跡の記録を取る。

以後、3～7 の工程を北地区と南地区の石垣で交互に行い、解体を進めています。また、盛土や裏込石等も再利用のために袋詰めにして保管しています。

## 上面の遺構

南地区石垣の F・G 面上端の石材には、土塀の柱を据えたホゾ穴が 1.5m 間隔(五尺)で残っています。今回の調査では、このホゾ穴から 2.0m 内寄りの位置で、石材を円形に並べた遺構を一か所検出しました(石囲 1)。土塀が倒れないように設けた控柱を据えた痕跡と考えていますが、他のホゾ穴に対応する位置では見つかりませんでした。また、この遺構の近くで、石材を一行に並べた遺構を一か所検出しました(石列 1)。

北地区石垣の A 面上端の石材にも、土塀の柱を据えたホゾ穴がありますが、間隔はまちまちです。また、E 面石垣の上端の石材にはホゾ穴が見られません。天守台周辺の石垣は近現代に、上端付近が積み直されており、原状をとどめていません。今回の調査でも、ホゾ穴のある石材が横倒しで積まれているのを確認しています。

## 石垣の築造工程

盛土や裏込石の状況から、現在までに解体の進んだ部分の石垣は、まず石垣の石材を据え、その内側に裏込石を詰め、その後に盛土を行うという順に築造されたと考えています。また、特に大型の石材を使用する隅の部分には、裏込石にも大きな石材が使用されていました。さらに、盛土中にブロック状に石材や剥片が入れられている例があり、作業中に不要になった石を埋め込んだものと推定しています。

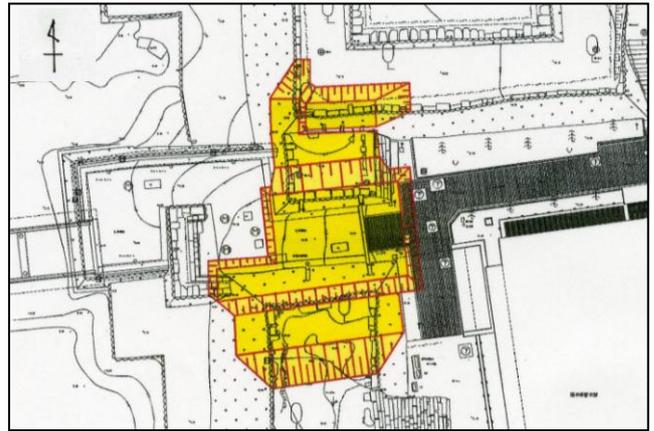
石垣の石材は、ほぼすべてが笏谷石です。裏込石も、南地区では笏谷石の割石が大部分で、上層では笏谷石製瓦等の破片が多数含まれます。一方、北地区では笏谷石の割石も多いのですが、それと同じくらい円礫(河原石)が使われています。

## 出土遺物

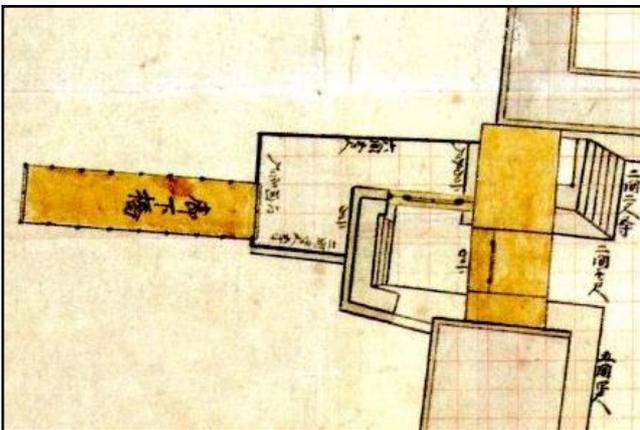
笏谷石製瓦と粘土瓦が出土しています。粘土瓦は釉薬を掛けないいぶし瓦が多く、釉薬を掛ける赤瓦は少量です。陶磁器の出土はごくわずかです。



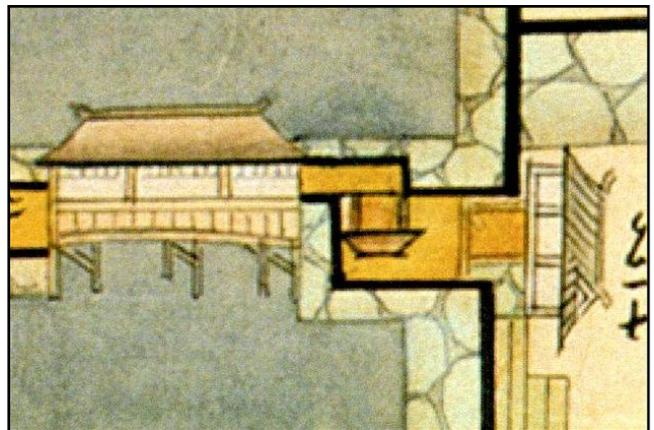
第1図 調査区の位置



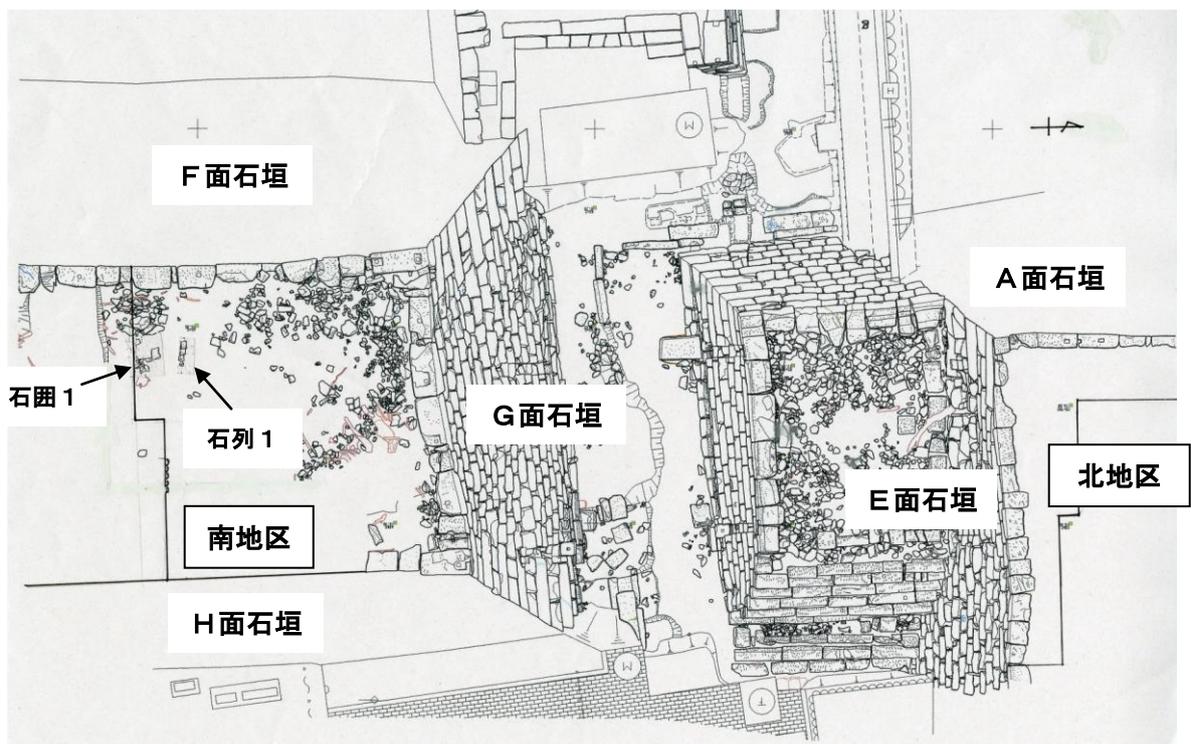
第2図 調査範囲



第3図 「福井城本丸御建物図」『松平文庫』



第4図 「御城下之図」正徳4年(1714)



第5図 調査区上面平面図 (縮尺 1/200)



第6図 石囲 1・石列 1 (南地区南縁部)



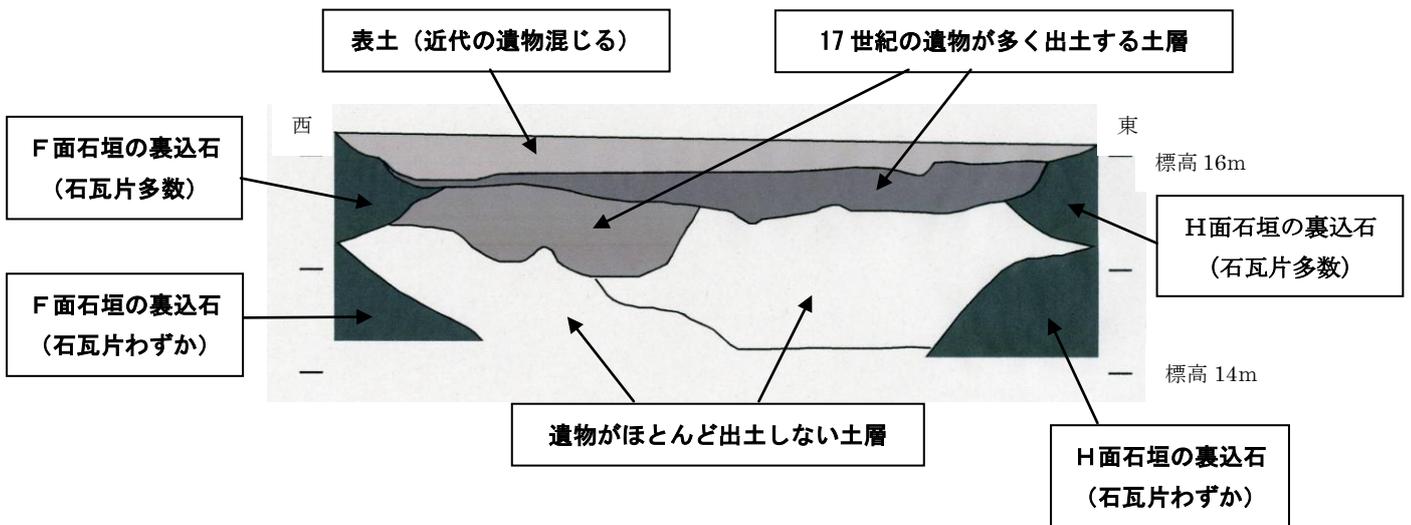
第7図 ホゾ穴のある石材  
(横倒しに設置・北地区E面石垣)



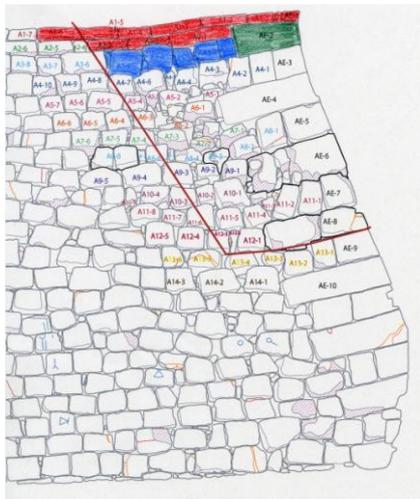
第8図 石垣隅の大型裏込石 (南地区東北隅)



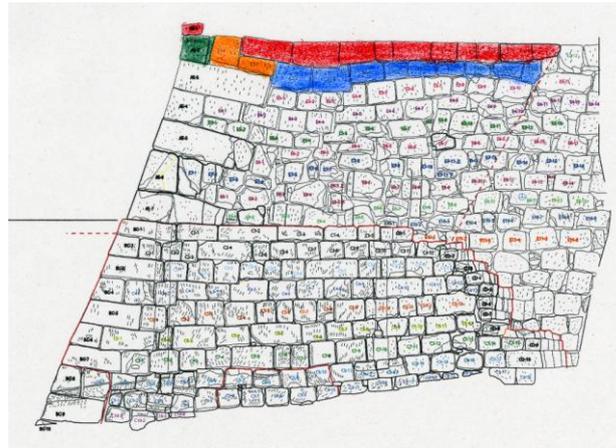
第9図 裏込石の断面 (南地区F面石垣裏込石)



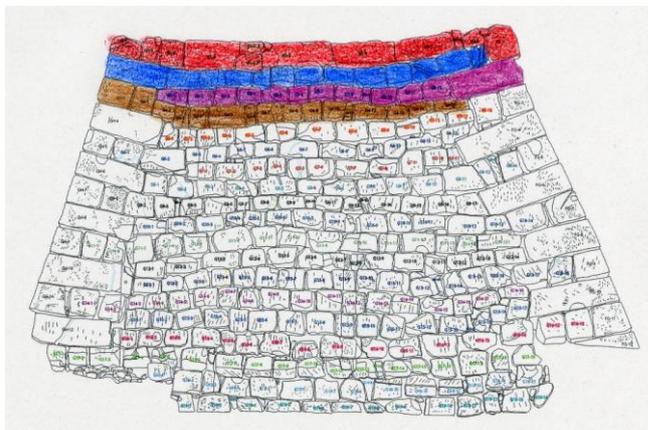
第10図 南地区の東西方向の土層断面 (縮尺 1/80)



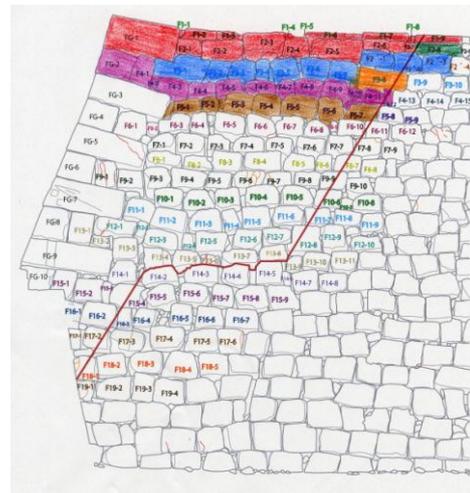
A面石垣



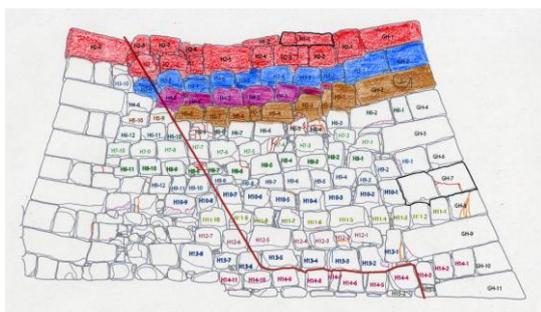
E面石垣



G面石垣



F面石垣



H面石垣

第11図 石垣解体範囲（色塗り部は5月1日までに解体済み。）



第 12 図 発掘調査風景



第 13 図 石垣解体風景



第 14 図 石垣調書作成（計測）風景